



—平成29年度 成人式—

のぞみ
希望という名の船に
夢を乗せて

松川町公民館報 第647号

館報 まつかわ

主 張

成人式で発表されたおふたりの新成人の意見発表をご紹介します。

吉川 洋明さん

本日は、成人を迎えた私たちにこのような盛大な式典を開いていただきありがとうございます。

こうして成人式という晴れ舞台で壇上に立ち、新成人として意見発表をできるのも、家族や友人、お世話になった先生方、地域の方々に支えられ成長できたおかげです。本当にありがとうございます。

この松川町では小学生から高校まで野球に打ち込み、野球を通じて、努力する大切さや仲間を信じ協力しながら1つの目標に向かって進んでいく大切さを学ぶことができました。



吉川 洋明さん

した。今でもその仲間たちと、交流があり今日の成人式と一緒に迎えることができ喜びで胸がいっぱいです。

現在は18年間住んでいた松川町を離れて愛知県名古屋市で大学生として生活しています。松川町を離れて気づいたことが2つあります。1つ目は名古屋などの空気や水を飲んでみただけだと、松川の町とは比べ物にならないくらいおいしくないと感じました。都会に出てきたからこそ自然の豊かさの大切さを知ることができました。2つ目は、人とのつながりです。今住んでいる名古屋では松川に比べて

地域交流があまりなく、松川では地域の方々に名前を覚えてもらい、気さくに話しかけてくれる方が多かったです。私は多くの人と関わり、交流することが好きです。何故かと言うと、人は決して1人では本当の楽しさや悲しさを感じる事ができません。周りや誰かが支えてくれている、友達や家族、地域の方々がいるから生きていけるのだと思います。現代では、子どもも大人も心の問題が課題となってきています。今後、健康で幸せに生きていく社会を目指

していくためにはその心の問題を少しでも改善、解決していく必要があります。その際に人とのつながりが大切になると思います。この大学生活で学んだ人とのつながりの大切さを成人を迎えた私は社会で伝えていける存在になりたいです。

私は現在保健体育の教師を目指し勉強しています。私は子どもたちに体育の授業を通して「動く楽しさ」、「できる楽しさ」を教えるのはもちろんですが、「1人ではなくみんなで1つの課題を解決する楽しさ」を特に伝えていける教師になりたいです。そのためには相手のことを思いやり、相手の立場に立つて物事を考えられる子どもたちを育てていきたいと思っています。

現在は大学での勉強だけではなく、障がい者施設で障がいを持った子どもたちの支援のアルバイトをしています。ここでは様々な個性を持った子どもたちと触れ合いながらその個性を認めてあげ、個性に合わせた対応を学んでいます。だれもが幸せに生きるためには、人と人とが交流をしつかり持ち、相手の立場を思いながら共同する必要性を日々感

じています。このことは教員としてだけではなく、社会に出た際に必ず大切な学びとなっていると思います。

私はこの大学の4年間で「様々な経験がためる絶好の機会」だと思っています。大学生生活の学びを通じてこれらの考え方を更に深め自分なりに工夫し、学んだ事、経験したことを生かしてこの先の人生で役立てていこうと思っています。

成人式を迎え繰り返すにはなりますが、松川町で生まれたことに誇りを持ちながら、自然の大切さや、人とのつながり、関わりを大切にし、思いやりを持った行動ができる大人になることを誓います。

最後に成人式となるということで、今まで育ててくれた両親には感謝の言葉しかありません。今ではあう機会が減っていますが、あった時は感謝の気持ちを伝え、少しずつ恩返しができるようにしたいと思います。

長くなりましたが、今回は皆さん成人式ということで久しぶりにあった友人や恩師がいると思うので、昔の思い出を話しながら交流して楽しい1日にしましょう。

成人の



林 啓太さん

林 啓太さん

本日は、私たち新成人のためにこのような式を開いていただき、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。また、町長をはじめ来賓の皆様から温かいお祝いと激励のお言葉を頂き、新成人としての喜びを噛みしめると同時に、今後の責任の重大さを痛感しています。私たちも20歳を迎え、すでに社会に出て働いている人や、学業に励んでいる人など立場は様々ですが、一人一人が自分の行動に責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持って精進



していこうと思います。成人式が行われるというところで、中学校卒業以来あつていない人とあえることをとても楽しみにしていました。中学校時代の思い出はというと、とにかくサッカーに没頭していたように思います。あのサッカー部のメンバーでもう一度サッカーをしたいと思うこともありました。また、中学校時代の覚えていることは、毎年担任の先生が替わったことです。それぞれの先生方に大変お世話になったことを覚えています。また、つい先日小学校の同級生と集まる機会があり、当時の思い出に花を咲かせることができました。

今日は、そこに集まれなかった人とも話せたらいいなと考えています。

さて、私事ではありますが、高校卒業後、長野を出て東京の大学に進学しました。大学では、高校のときから興味があった英語学や、アメリカ文学の勉強を中心に学んでいます。また、昨年には、大学の留学プログラムでオーストラリアへ1カ月という短い期間ではありましたが、留学をしました。ホームステイということで、最初はホストファミリーの方と上手くコミュニケーションがとれるのか、とても不安でしたが、自分の持っていた英語力を使って積極的に話しかけることで、ホストファミリーと上手くコミュニケーションをとることができました。この留学で学んだことは、日本人がいかに消極的なのかということ。留学中の学校では、様々な国籍の人たちと共に勉強しましたが、日本人が一番おとなしい印象がありました。外国の人の失敗を恐れない積極性は見習うべき姿だと思つたので、元々とても消極的だった私は、もっと積極的にならなければいけないと痛感した留学でした。

私は、今は、14年間過ごした松川町を離れ、東京で生活していますが、将来的にはこの長野県に英語教師として戻ってこられるように、大学で日々勉強に励んでいます。久しぶりに中学校の文集を開いてみると、将来の夢に学校の先生と書いてありました。そんなに前からなりたかつたのかと、私自身も驚きました。教師になるためには、並大抵の努力ではなれませんが、そのために大学で学んでいるので、残りの大学生活を無駄にしないように、努力していきたいと考えています。



「松川町の未来を語る」 100人男女会

男と女いきいき講座

7月22日(土)にえみりあホールにおいて男と女いきいき講座「松川町の未来を語る100人男女会」が開催されました。

講師は昨年も来町された萩原なつ子さん(立教大学大学院教授)。日本の各地での実践



萩原なつ子さん

地方活性化・地方創生のキーワードは3つ

①連携・協働

現在の社会は少子高齢化、防災・環境問題など課題が多様化し、行政に要求するだけでは解決しなくなっている。市民が公共的課題解決のため

を基に、松川町の未来をよくするにはどのような視点を持つべきか示していただきました。そして参加者がグループでお茶を飲みながら気軽に話し合うワールド・カフェを行い、松川町についてじっくり考える機会を持ちました。

自主的に参加し、自分たちでできることは自分たちでやる。いろいろな立場の人や組織がそれぞれの資質や特性を持ち寄り、対等な立場で協力して共に働き、社会的な目的を果たそうとすることが求められている。

②男女共同参画

議員さんが男性ばかりだと女性の視点が欠け、男性に責任がずしつとかわかる。男性にばかりに任せるとはならず、女性も一緒に作っていくという覚悟を持つ。

参加でなく男女共同参画とは、物事を決める時に計画と

か立案とかに男女が対等の立場でしっかり関わり、なおかつ責任を持って遂行することである。

③ダイバーシティ(多様性)

今までの社会では固定観念が多くあり、「普通は〇〇だ。」など規準を作り他を排除することが多かった。

「女性は〇〇」「男性は××」「障がい者は△△」と決めつけることはやめ、さまざまな違いを尊重して受け入れ、「違い」を積極的に生かすことで、変化し続ける社会環境や多様化するニーズに最も効果的に対応することができる。

ワールドカフェ 「松川町の未来を語るパートⅡ」

「松川町がだれにとっても優しいまちになるために課題だと思ふこと」を個人で考え、「解決すべき課題」をグループで一つ選び、「解決するためにはどうしたらよいか」「自分たちが明日からできる取り組みは何か」についてアイデアを出し合いました。

「若者もお年寄りも生活しやすい仕組みをいろいろ人の意見で作る」

- ・若者の意見を引っ張り出す交流の場を設ける。
- ・話し合いで話してきたことや聞いてきたことを帰宅後家族で話題にする。
- ・出てきやすい時間帯に集まりを持つ。
- ・あて職ばかりの会議を変えたい。
- ・会議など考える場があるというところをSNSなどで気軽に知る機会を増やす。



ワールド・カフェ

「みんなが気軽に集い話し合える場や機会を設ける」

- ・小さな集団で気持ちを話し合つて理解しあえる場を設ける。自治会単位でのイベントが良い。
- ・若い人や新しい人も入りやすく溶け込める方法で。
- ・若いお母さんだけの集まりも良い。周りもその集まりを認めていく。
- ・若いお母さんやおばあさんが一緒に参加できる場。

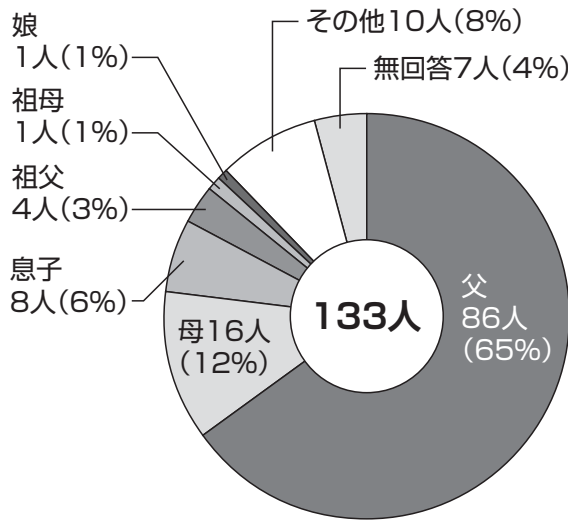
参加者から「若者もお年寄りも生活ししやすい町を、いろいろな人の意見で作るこのテーマを大事にしたい」、「本当に松川町について考えていかなければならない時期に来ていると思う」という感想が寄せられ、「課題をどのように解決していくか」についても多々多くの人と話し合いを積み重ね、松川町がだれにとっても優しいまちになるようにしていきたいなと思います。

男女共同参画推進アンケート結果

1 松川町男女共同参画推進条例があることを知っていましたか？

はい79人 いいえ51人 無回答3人

2 主に会議に出席するのは家庭の中のどなたですか？



3 昔からの慣習の変えるべき点はどこですか？

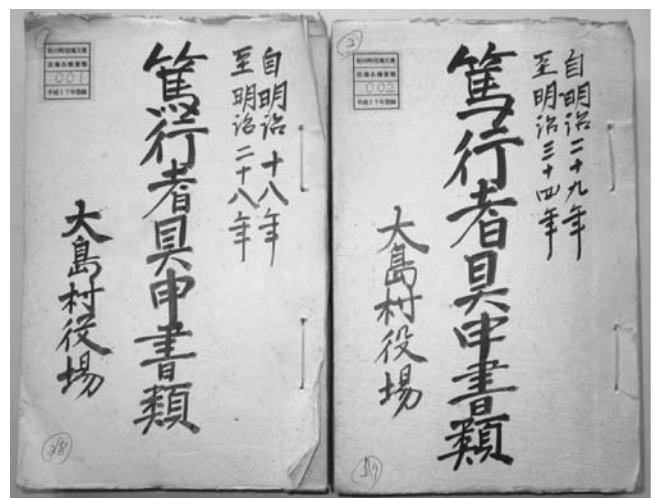
- ① 会議に男が出るのは当たり前という風潮。
- ② まずは家庭における役割分担から。
- ③ 女性を積極的にいろいろな役を登用させては？
- ④ 昔から当然と思ってきた慣習を行動から。
- ⑤ 「女だから」と消極的な考えを持たない様に。

松川町今昔

資料館だより
◆第15回◆
「明治期の篤行記録」

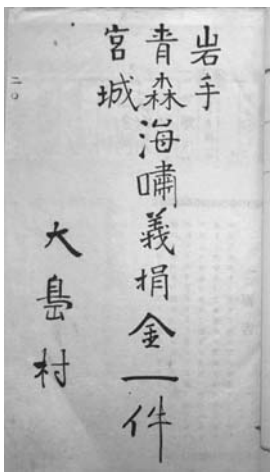
明治期の大島村役場文書の中に「篤行者具申書類」という綴が三冊ありました。それを開いてみると、色々なことに寄付や献金をした人たちの記録・災害に対し義捐金を出した人たちの記録・良い行いをした人の記録などが書かれています。

その中で二つの大きな災害への義捐金が目に留まりました。一つ目は明治24年（1891）10月の濃尾地震です。そして二つ目は明治29年（1896）6月の三陸沖地震による大津波です。濃尾地震が起こると、飯田町に震災救助同盟会（愛岐震災救恤会）ができ、伊原五郎兵衛・井村万之助・上柳喜右衛門らが呼びかけ人となり、義捐金出金依頼が、各地に配られました。その依頼文を見ると「今これを聞き、たいへんせつなくかわいそうに思い、なにかしなくてはと思う。愛知岐阜は境を接する隣の地方であり、おつきあいもあり、志を集めて送りたいと思う。」と書かれています。



が募集されています。事務所が専照寺におかれ、義捐金の取りまとめをしただけでなく、長久寺において法要も行われています。

大島村では、原民二郎村長をはじめとして、二〇名ほどの人々が義捐金を出しています。濃尾地震は、マグニチュード8・4で、死者7466人全壊14万2177戸半壊8万324戸という、大きな被害を出しました。岩手県三陸沖、約200キロメートルの海底でマグニチュード7・6の地震が発生し、津波が岩手・宮城・青森の海岸部を襲い、3県合わせて約2万7000人が亡くなりました。



この時飯田町の寺院などが呼びかけ人になって、義捐金

松川町資料館
伊坪 達郎



女性初

名子区社会部長

坂田万里子さん



られるのではないかと、名前ばかりになってしまわないかなど不安なことばかりだったそうです。

女性では初めて名子区社会部長になられた坂田万里子さん。
区会2年目で大役を任せられ、まわりは年上の方ばかりで、女性でできるのか、女性で何ができるのかという目線で見

河川清掃などで力仕事の際は女性ということで気を遣ってくれたり、仕事を持ちながらのため行事参加は夜や土日にしてくれたりと周りの人が気を遣ってくれるそうです。そして、家族の協力がないとできないことで、家族の支えがあつてこそ部長の役割をこなせていると話してくれました。地区館の管理、事業の運営、名子区会の活動など、今は前年と同じ事業をすすめていて、

部長として実感がまだないようですが、今までの感想や女性の参加についてお聞きすると「区の方と触れ合えること、いろいろな方に出会えることができてよかったです。なかなか外に出ることがなかったのので出るきっかけになった。参加しているのは男の人がほとんど、女性の人も出てきて聞いたり参加したりした方がいいと思う。女性が参加すると雰囲気が変わるのではないかと。役員も女性一人よりは何人かいた方が心強い。」と話してくれました。

今後、名子区に限らず様々な場面で女性の参加が増えることを期待したいです。

すぽっと

楽しかった小八郎登山

8月20日(日)午前9時、曇り空のなか小八郎登山に挑みました。

『大股で歩くより、小股で歩いたほうが疲れにくいぞー』昨年とは登山口が少し変更になり、登山口から急な坂を登り始めて5分もしないうちに、登山のベテランさんから登山

初心者のお子さんに向けてのアドバイスが飛びました。町外からや県外からも参加していたとき、総勢24人で登りましたが初対面にも関わらず、山の話や十八番話をワイワイしながら、またゼーゼー息を切らしながら…一時間半ほどで山頂に到着しまし

た。山頂では記念撮影をし、お弁当を食べました。到着した時には曇っていました。記念撮影をしている間に晴れてきて、烏帽子岳や松川町を含む飯田・下伊那を望むことができました。山頂の景色と美味しい空気などのスパイスを得たお弁当は、すごく美味しかったです。

おすそわけでもらった卵焼きを食べ、『家での卵焼きよ

俳句

合歡の花

西澤 清子 (中荒町)

恙なく過ぎし一日の良夜かな
約束もなく陽の落ちる秋の暮
小さき手に確かな力合歡の花
病葉の風の意のまま暮れなずむ
雲分けて空を押し上げ鶴来たる



りも100倍うまい!!』と言いつつの方もいらつしやいました。

昼食後、一時間半ほど下山しましたが、歩き慣れていない山道で膝がガクガクしました。

普段は下から見上げていることが多い小八郎を登り、山頂からの景色を見られて、楽しい小八郎登山でした。

本館 体育部

今村 剛弘



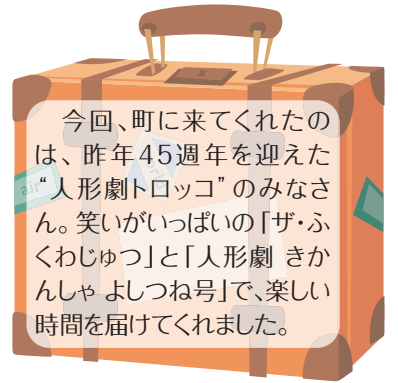
毎月第3日曜日は 家族ふれあう
「家庭の日」



人形劇

が やってきた!

～人形劇トロッコの トランクシアター～



夏休みの8月6日(日)。期待に輝く笑顔いっぱいの子ども達が、家族の皆さんと一緒に町体トレーニングルームに集まってきました。



ワンペイのキュートな腹話術

「ネエ、まだー?もうすぐ始まるー?」

待ちきれなくて、思わず走りまわっちゃう子ども達。

さあ、お待ちかねのトロッコの登場ですよ。

最初は、トランクからとび出した犬のワンペイの腹話術。絶妙なタイミングと、人形操作の見事さに思わず1人でやっている事を忘れてしまい、笑いに引き込まれてしまいました。みんなの気持ちをギュッと

つかんだ後は「きかんしゃよしつね号」という人形劇。石炭を燃料に走る、よしつね号とべんけい号のお話し。毎日、力いっぱい走る2台の機関車ですが、新しい電車や新幹線に追い抜かれてしまうことに。でも落ち込んではいられない、まだまだ頑張つて一生懸命走るんだ!

この人形劇を観ている、おとなの私が、カづけられたり、勇気づけられたりしたように思いました。

暑い夏の1日。少しでも気持ちが涼やかになれた、ひとときだったら幸せです。



きかんしゃ よしつね号



夢中で観る子ども達

こころ草

テニスやバレーボールなどのテレビ中継を見ていて不思議に思うのは、チャレンジシステムの判定映像です。ボールの軌道や落下位置がコンピュータグラフィックスで表示され、インカアウトか判定が下されます。

チャレンジが成功した側は当然大喜びですが、覆された側の寂然としない表情が印象的です。

これはホークアイというシステムだそう、複数台のカメラを使用してボールの軌道をミリ単位で測定し、その正確さは99.9%だそうです。このシステムのお陰で公平性は確実にアップしたと思います。

しよっちゅう判定が覆りますが、実画像ではなくCGで表示されるため少しうさんくさく感じます。ボールの扁平率の問題とかオペレーターが手心を加える余地があるんじゃないかとか、いろいろ考えてしまいます。

また昨今の試合ではチャレンジをタイムアウト代わりに使って試合の流れを呼び寄せるという手法もよく見かけます。

このシステムが審判の権威を損なうことなく進化していくことをスポーツファンとして希望します。

宮下 徹

公民館報 「まつかわ」

第 647 号
平成29年9月15日

発行所 松川町公民館
責任者 小 沢 誠
編集人 公民館編集部

Tel 36-2622

e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp

飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。